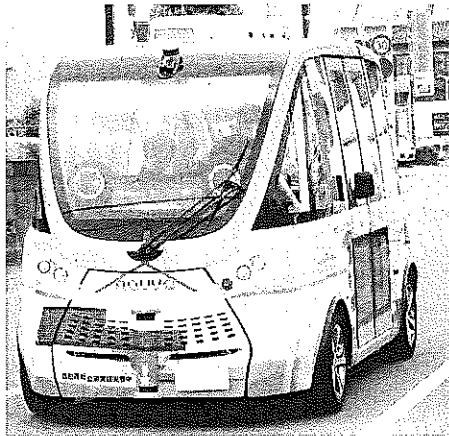


公道で歩行者に伝える

自動運転車 の市光と ボードリー HMIの実証実験



市光工業とBOLDLY 車の進行方向などを歩行者(ボードリー、佐治友基社)に伝えるヒューマン・マシン長兼最高経営責任者、東京 インターフェース(H都港区)は27日、自動運転 M I)の公道実証を報道向

における完全自動運転)車両を円滑に走らせる狙いがある。

茨城県境町の「道の駅さかい」と「猿島コミュニティセンター」間で6月19日から7月5日まで実証中だ。ボードリーの自動運転バスに市光工業のディスプレイを組み込んだ。乗務員が専用タブレットを通じて「発進」「横断者あり」「停車」「右折」「左折」の「あいさつ」などを文字や表情、矢印でディスプレイに表示させる。今7種類を「レベル4」表示できる。(特定条件下 将来的には、ボードリー

けに公開し、両社によると、公道での実証は日本初という。H M Iを駆使し、自動運転「レベル4」表示できる。将来的には、ボードリーが提供する自動運転車両運行管理プラットフォーム「ディスプレイパッチャー」と市光のシステムを連携し、自動で適切なサインを表示できる仕組みを目指す。表示部もバンパーに移す考えだ。

市光工業イノベーション部の箕川彰一部長は「完成させるまでにはフラッシュアップは必要だが、実際のフィールドで検証できるのは貴重な機会だ」と語った。ボードリーの佐治友基社長兼CEOは「自動運転バスも車内の接客などで人手がかかる。車外とのコミュニケーションがHMIで可能になることで業務負担を抑制できる」と話した。

HMIで車両を円滑に走らせる